

【学級づくりプログラム(分布4)】

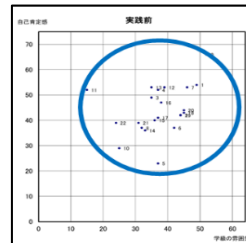
★日常観察による理解★

【教師による日常観察】

- 周囲を意識した言動をしてほしい。
- 学級のルールを定着させたい。
- 些細なことでのトラブルが多い。

★客観的な理解(C&S質問紙)★

分布4(プロットが大きく広がった集団)



【援助や支援方法】

誰もが考えや思いを安心して伝えられる環境が必要。しっかり話を聴き、受容する活動や相手が話したくなる質問の仕方が有効である。

※補助資料参照



【SST】「話の聴き方」

受容的に話を聴いてもらう体験を通して心地よさを味わい、その大切さを理解することができる。

プログラムⅠ(実態に基づいたSST)

○学級活動

(上手な話の聴き方名人になろう)



- 事前の活動 2日(アンケート等)
- 本時 「話の聴き方」のSSTでスキルを身に付ける。
- 事後の活動 5日(自己チャレンジ)

算数科の話合い活動で活用・定着

プログラムⅡ(実態に基づいたSSTを活用した算数科)

○算数

(わり算や分数を考えよう)



- であう
 - 追究する
 - つかう
- それぞれの話合い活動で、
【インストラクション】
【モデリング】
【リハーサル】
【フィードバック】
のSSTの流れを基に、身に付けたスキルの活用・定着を図る。

学 級 活 動 学 習 指 導 案
題材名「上手な話の聴き方名人になろう」

令和〇年〇月 3年 指導者 〇〇 〇〇

I 題材の構想

1 題材観

略（学級づくりプログラム 分布3 参照）

2 研究との関わり

「生徒指導提要」では、生徒指導の基本は児童生徒理解であり、調査データに基づく客観的な理解も有効であると記されている。日頃の日常観察による理解に加え、客観的な理解に基づくことで、児童の実態に基づいた具体的な指導や支援を取り入れた学級づくりができると考える。本研究では、日常観察による理解と客観的な理解に基づき、実態を把握し、実態に基づいたSSTを活用する。

本学級は、C&S質問紙の調査結果が分布4であった。誰もが考えや思いを安心して伝えられる環境が必要であり、しっかり話を聞き、受容する活動や相手が話したくなる質問の仕方が有効である。また、日常観察による理解から周囲を考えながら発言したり、発表したりすることが苦手であるということが確認されている。そこで、注意深く耳を傾ける大切さを身に付けるために「体を向ける」「話す人を見る」「あいづちを打つ」など、上手に話を聴くためのルールを習得する「話の聴き方」のSSTを行う。児童理解に基づいたSSTを行うことで、互いに気持ちよく生活するためのルールが定着し、安心して交流することができるようになり、本音で交流できるリレーションが形成されることで共感的な人間関係を育むことができると考える。

3 題材の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	学級や学校において、互いのよさを見付け、仲よく信頼し合って生活するための基本的な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。	学級内のルールが定着するまでに時間がかかり、自分本位の言動が見られる。集団を意識している児童もおり、行動や理解に差がある。
思考力・判断力・表現力等	学級における自己の生活上の課題に気づき、解決方法を意思決定し、実践できるようにする。	自分の気持ちをうまく表現できずに生活している児童もおり、人間関係づくりにおいて、正しい判断の理解に差がある。
学びに向かう力、人間性等	友達と関わる過程を通して、自己理解を深め、互いに協力し合って温かな人間関係を形成しようとする態度を養う。	進んで、友達と関わろうとする様子は見られる。行動力のある児童に引っ張られている面も多く、互いに協力することへの意識が低い。

4 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。
集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。
主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 授業計画

事前の活動（2日）	本時	事後の活動（5日）
<ul style="list-style-type: none"> ・10月5日（木） ・10月11日（水） 朝の会・ 帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ・10月16日（月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月17日（火） ・10月18日（水） ・10月19日（木） ・10月20日（金） ・10月23日（月） 帰りの会

6 指導及び評価、ICT活用の計画（「事前の活動→本時の活動→事後の活動」）

時間	■ねらい <input type="checkbox"/> 学習活動 ★ICT活用に関する事項 【 】SSTの流れ	知	思	態	◆評価項目＜方法（観点）＞ 〔記〕：記録に残す評価 <input type="checkbox"/> 指導に生かす評価 <input checked="" type="checkbox"/> 評価に用いる評価
事前の活動	■話を聴く場面を振り返り、自己の課題に気付いたり、クラスの問題意識を高めたりする。 <input type="checkbox"/> 話の聴き方に気付けるようなアンケートに答える。〔★〕 <input type="checkbox"/> アンケートの結果から学級内での話の聴き方の課題を知る。			○	◆事前の活動は2日間で行い、①アンケートに答える。②クラスの課題を知る。に進んで取り組んでいる。 ＜アンケート（態）＞ ◆話の聴き方について進んで振り返り、クラスの課題に向き合おうとしている。 ＜アンケート（態）＞
[題材の学習課題] 受容的に話を聴いてもらう心地よさを体験することで、その大切さを理解しよう。					
本時（学級活動）	■話の聴き方の3つのルール（「体を向ける」「話す人を見る」「あいづちを打つ」）の習得を通して、聴く態度の大切さをマナーとして身に付けることができる。 <input type="checkbox"/> 学級の話の聴き方の課題を再確認する。	●			
[本時のめあて] 上手な話の聴き方名人になろう					
【①インストラクション】 <input type="checkbox"/> 資料を基に、「どのような聴き方をしたらよいのだろうか」と問題をもつ。 【②モデリング】 <input type="checkbox"/> 教師の2つの聴き方（悪い聴き方、よい聴き方）の見本を見て、それぞれの印象の受け方について考える。 <input type="checkbox"/> 上手に話を聴くための「体を向ける」「話す人を見る」「あいづちを打つ」の3つのルールに気付く。 【③リハーサル】 <input type="checkbox"/> 3つのルールを意識して、友達同士で話の聴き方の練習をする。〔★〕 <input type="checkbox"/> 3つのルール以外で、よい聴き方のポイントを考える。					

	<input type="checkbox"/> 3つのルールとよい聴き方のポイントを加えて、聴き方の練習をする。 【★】 【④フィードバック】 <input type="checkbox"/> 話の聴き方の体験を通して感じたことを振り返る。 <input type="checkbox"/> 事後の活動の「達人への道」の内容を決める。			◆ 上手な話の聴き方の習得を通して、聴く態度の大切さとマナーを身に付けようとしている。 <行動観察、発言、ワークシート（知） [記]>
事後の活動	■ 「達人への道（自己の課題）」にチャレンジすることを通して、身に付けたスキルを活用・定着することができる。 <input type="checkbox"/> 自己の課題にチャレンジする。 <input type="checkbox"/> ペアやグループ、学級全体で、それぞれの「達人への道」の内容を聴き合う。 【★】		●	◆ 自己の課題の中で、進んで上手な話の聴き方を身に付けている。 <行動観察、発言、ワークシート（思） [記]>

Ⅱ 本時の学習

- ねらい 「体を向ける」「話す人を見る」「あいづちを打つ」の上手な話の聴き方の3つのルールの習得を通して、聴く態度の大切さをマナーとして身に付けることができるようにする。

2 展 開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応【S】 ★ICT活用に関する事項 【】SSTの流れ	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 アンケート結果から課題を再確認する。 【★】（3分） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <めあて> 上手な話の聴き方名人になろう。 </div>	○授業中や友達との会話についてのアンケート結果を通して、学級内にはどんな思いや課題があるのか再確認する。 ○学級全体で再確認を図るためにアンケート結果を大型モニタに表示する。 ○めあてを提示し、本時で学習する内容を明確にする。
2 話の聴き方について問題をもつ。（5分） 【①インストラクション】 ○資料をもとに、「どのような聴き方をしたらよいのだろうか」と考える。 T：友達に話し掛けて、返事があった時と返事がなかった時の経験がある人はいますか？ S：ある。無視された。聞こえてなかったのかな。 T：返事があった時の気持ちはどうでしたか？ 返事がなかった時の気持ちはどうでしたか？ S：返事があると嬉しい。安心する。 返事がないと悲しい。心配になる。 T：相手が気持ちよく話せるにはどんな聴き方がよいと思いますか？ S：話をする人を見ながら聴く。	○児童が資料を理解しやすくするために、教師が資料を範読する。 ○自分事として捉えるために、資料の内容をもとに同じような経験がないか問い掛ける ○話をして返事が返ってくるだけでも元気が出ることを理解できるようにする。 ◎「相手が気持ちよく話せる上手な聴き方」について考えることを伝え、どんな聴き方がよいのか問題をもたせる。

<p>3 上手な話の聴き方のルールに気付く。 (10 分)</p> <p>【②モデリング】</p> <p>○2つの聴き方（悪い聴き方、よい聴き方）の見本を見て、それぞれの印象の受け方について考える。</p> <p>T：1つ目の聴き方はどうでしたか？ S：聴いてもらえていない感じがする。 T：2つ目の聴き方はどうでしたか？ S：聴いてもらえている感じがすごくした。</p> <p>○上手に話を聴くための「体を向ける」「話す人を見る」「あいづちを打つ」の3つのルールに気付く。</p> <p>T：何か気付いたことがある人はいますか？ S：うなずいていた。ちゃんと話す人を見ていた。</p> <p>○話し手側の気持ちを考えることで、聴く態度の大切さに気付く。</p> <p>T：3つのルールがあると話し手側は、どんな気持ちがすると思いますか？ S：ちゃんと話ができる。 T：この3つのルールをいろいろなところで使えないかな？ S：授業中。友達と遊ぶ時。</p>	<p>○児童は「今日の出来事」について話し、教師が「悪い聴き方」と「よい聴き方」の見本を示し、違いを問い掛ける。</p> <p>◎「悪い聴き方」では、「体を向ける」「話す人を見る」「あいづちを打つ」を無視した聴き方の見本を示す。</p> <p>◎「よい聴き方」では、「体を向ける」「話す人を見る」「あいづちを打つ」の3つのルールを意識した話の聴き方を示す。</p> <p>○気付きを共有するために、どんな聴き方がよいのか問い掛ける。</p> <p>◎上手な話の聴き方に気付けた児童を称賛する。</p> <p>○3つのルールをクラスで共有するために、黒板に提示していく。</p> <p>○話し手側の気持ちも考えることで、聴く態度の大切さやマナーであることにも気付けるように促す。</p>
<p>4 上手な話の聴き方名人になるための練習をする。[★] (20 分)</p> <p>【③リハーサル】</p> <p>○3つのルールを意識して、ペアで話の聴き方の練習をする。</p> <p>T：「今朝起きてから」という題で話をします。一人2分、話をしたら交代をしてください。 S：（3つのルールを使いながら話を聴く。）</p> <p>○3つのルール以外で、よい聴き方のポイントを考える。</p> <p>T：3つのルール以外で、どのように聴いてもらおうと話しやすいですか？ S：内容に合わせた表情で聴く。</p> <p>○3つのルールとよい聴き方のポイントを加えて、再度聴き方の練習をする。</p> <p>T：「好きな食べ物」という題で話をします。一人2分、話をしたら交代をしてください。 S：（3つのルールとよい聴き方のポイントを使いながら話を聴く。）</p>	<p>◎黒板に掲示してある「上手な話の聴き方の3つのルール」を意識させて行う。</p> <p>○3つのルールだけではなく、相手が話しやすいと思う聴き方があればやってよいことを助言する。</p> <p>○3つのルール以外でよい聴き方のポイントを見付けられた児童を称賛する。</p> <p>○児童から出たよい聴き方のポイントは、黒板に示し、学級で共有する。</p> <p>○よい聴き方が見付けられなかった場合は、教師の観察からよい聴き方をしている児童を取り上げて説明する。（繰り返す、質問が入るなど）</p> <p>○3つのルールとよい聴き方のポイントを意識して、話をするように伝える。</p> <p>◎聴き役の児童が活動場面をICTで録画し、練習の様子を可視化し、スキルの使い方を客観視できるようにする。</p> <p>○上手な話の聴き方名人を目指して、主体的に取り組んでいるペアを称賛する。</p>

	<p>◆評価項目</p> <p>上手な話の聴き方の習得を通して、聴く態度の大切さとマナーを身に付けようとしている。</p> <p><行動観察、発言、ワークシート（知）></p>
<p>5 「上手な話の聴き方名人」の学習を振り返り、「自己チャレンジ」の内容を決める。</p> <p>（7分）</p> <p>【④フィードバック】</p> <p>○「上手な話の聴き方」の体験を通して感じたことを振り返る。</p> <p>S：うなずいてもらえると嬉しかった。</p> <p>○事後の活動の「達人への道」の内容を決める。</p> <p>S：授業の中で、3つのルールを使えるようにする。</p>	<p>○体験を振り返り、ワークシートに感じたことを記入する。</p> <p>○様々な意見に触れるために、体験を通しての感想を発表させる。</p> <p>◎活用・定着を図るために話の聴き方を活用しながら練習ができていたことをほめ、やる気を高める。</p> <p>◎スキルの定着を図るために、発表の場でも上手な話の聴き方を活用できる雰囲気づくりに努める。</p> <p>○達人への道（自己チャレンジ）を決める場面では「上手な話の聴き方」を振り返り、話し手の気持ちを考えながら意思決定できるようにする。</p> <p>○達人への道（自己チャレンジ）が決まらない児童のために、例示を示したり、他の児童の内容を伝えたりする。</p>

3 板書計画

めあて 上手な聴き方名人になろう	
<p>どんな聴き方がよいか？</p> <p>返事あり 返事なし</p>	ふり返り
↓	
<p>よい聴き方の3つのルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体を向ける ・ 話す人を見る ・ あいづちを打つ + ・ 	<p>たつ人への道</p>
<p>マナー・</p> <p>聞く態度の大切さ</p>	

【上手な話の聴き方名人になろう】

組 番 名前

★下の資料を見ながら考えよう。

山びこことゴン太

山のおくのまたおくに、ゴン太くんは住んでいました。
もう何年もひとりぼっちです。

ひとりぼっちにはなれましたが、雨の日はきらいです。
なぜかという、たった一人の友だち

山びこくんが話をきいてくれないからです。
雨の日には、

「おーい、元気か」

と言つても…ザー。

「おーい、さびしいか」

と言つても…ザー。

だけなのです。

今日は晴れ。

ゴン太くんは、朝からウキウキ。

大きな声で、

「おーい、元気か」

と言つと、

「おーい、元気か」

と返事が返ってきます。

「今日は晴れてうれしいな。」

と言つと、

「今日は晴れてうれしいな。」

と返ってきます。

そんな日はゴン太くんは一日中元気にすごしました。

★「よい聴き方の3つのルールを確認しよう。」

①

②

③

+

★「上手な話の聴き方名人になろう」を体験して感じたことを書いてみよう。

(れい：〇〇が分かった。〇〇が楽しかった。〇〇がじょうずだった。)

★達人への道を決めよう。

<目ひょう>

★目ひょうをふりかえろう。(自分のがんばりにあう顔マークに○をつけよう)

①(/)

*ペアでふり返し



②(/)

*ペアでふり返し



③(/)

*グループでふり返し



④(/)

*グループでふり返し



⑤(/)

*クラス全体でふり返し



★たつ人への道をチャレンジしてみたの感想を書こう★

算 数 科 学 習 指 導 案
単元名 大きい数のわり算、分数とわり算
「わり算や分数を考えよう」

令和〇年〇月 3年 指導者 〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元観

本単元は小学校学習指導要領解説算数編(平成 29 年 7 月)、A 数と計算 (4) 「除法」の「(4) ア (ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること (イ) 除法が用いられる場面を式にしたり、式を読み取ったりすること (オ) 簡単な場合について、除数が 1 位数で商が 2 位数の除法の計算の仕方を知ること」「(4) イ (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること (イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと」に位置付けられている。

本単元では、簡単な場合について、除数が 1 位数で商が 2 位数の除法の計算の仕方や分数と除数の関係について理解し、計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算方法や問題場面における分数の意味について考える力を養い、既習の計算方法や分数の除法としてみた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 研究との関わり

本研究では、児童の実態に基づいたソーシャル・スキル・トレーニング (以下、SST) を取り入れた学級づくりプログラムを行い、自他を尊重し、一人一人が互いに認め合える児童の育成を目指す。プログラム I では実態に基づいた SST を学級活動で行い、プログラム II では SST で身に付けたスキルを算数科の話し合い活動で活用した授業を実践していく。

本学級では、聴く態度の大切さを身に付けるために「体を向ける」「話す人を見る」「あいづちを打つ」など、上手に話を聴くためのルールを習得する「話の聴き方」の SST をプログラム I で行い、プログラム II では「話の聴き方」の SST で身に付けたスキルを算数科の話し合い活動で活用することを通して、共感的な人間関係づくりを算数科の学習においても築いていけるようにする。

3 単元の目標及び児童の実態

	目 標	児童 (生徒) の実態
知識及び技能	簡単な場合について、除数が 1 位数で商が 2 位数の除法の計算の仕方や分数と除法の関係について理解し、計算をすることができる。	除法の計算において、かけ算九九の定着が不十分な児童もあり、計算になれるまでに多くの時間がかかる。
思考力、判断力、表現力等	数学的表現を適切に活用して計算方法や問題場面における分数の意味について考えることができる。	計算方法や分数が意味する内容についてじっくりと考えることは難しい。
学びに向かう力、人間性等	既習の計算方法や分数を除法としてみた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする。	除法の計算方法や分数を「分ける」という場面で活用して考えている児童もいる。

4 評価規準

知識・技能	①簡単な場合の 2 位数 ÷ 1 位数の計算の仕方について理解し、説明している。 ②分数で表される場面を適切にとらえ、除法を用いて答えを求めている。
思考・判断・表現	①簡単な場合の 2 位数 ÷ 1 位数の計算の仕方について、既習の計算の仕方や図などを用いて、数の構成に着目して考え、説明している。 ②等分することや分数の意味に着目して、分数で表されている場面について、除法を用いて計算することを考え、説明している。
主体的に学習に取り組む態度	①簡単な場合の 2 位数 ÷ 1 位数の計算の仕方について、具体物や図、式を関連づけたり、既習の計算の仕方などを基に考えたりしながら、その過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。 ②分数と除法の関係やもとの数と分数の関係を考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

5 指導及び評価、ICT活用の計画（全5時間：本時第5時）

過程	時間	■ねらい □学習活動 ★ICT活用に関する事項 ◇SSTに関する事項	知	思	態	◆評価項目＜方法（観点）＞ 〔記〕：記録に残す評価 ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価
であ う	1	<p>■既習事項を復習したり、身近な場面での活用を想起させたりしながら、単元の課題を見だし、学習の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>□単元名から新たな学習を想起する。</p> <p>□今までの「わり算」の学習を振り返る。</p> <p>□「23×3」の筆算を復習しながら、10を基に考えることや位ごとに分けて考える方法を思い出す。</p> <p>□2年生の「分数」の学習を想起し、同じ大きさに分けた1つ分の表し方を振り返る。</p> <p>□わり算や分数が身近で使われている場面を考える。</p> <p>□単元の課題を立てる。</p>			○	<p>◆進んで既習事項を振り返ったり、身近な場面での活用方法を見付けたりしようとしている。</p> <p>＜発表・ノート（態①）〔記〕＞</p>
<p>〔単元の学習課題〕 大きな数のわり算の計算の仕方を考えたり、分数で表されている等分の場面とわり算の計算を関係付けたりしながら考えよう。</p>						
追 究 す る	2	<p>■「$60 \div 3$」などの計算の仕方を、既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。</p> <p>□問題を把握し、立式する。</p> <p>□「$60 \div 3$」の計算の仕方を考える。</p> <p>□「$60 \div 3$」の計算の仕方を説明し合う。〔◇〕</p> <p>□計算の仕方をまとめる。</p> <p>□適用問題に取り組み、本時を振り返る。</p>		●		<p>◆$60 \div 3$などの計算の仕方を、図や式を用いて、被除数の数の構成に着目して考え、説明している。</p> <p>＜観察・ノート（思①）〔記〕＞</p>
	3	<p>■「$69 \div 3$」などの計算の仕方を、既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。</p> <p>□問題を把握し、立式する。</p> <p>□「$69 \div 3$」の計算の仕方を考える。</p> <p>□「$69 \div 3$」の計算の仕方を説明し合う。〔◇〕</p> <p>□計算の仕方をまとめる。</p> <p>□適用問題に取り組み、本時を振り返る。</p>		●		<p>◆$69 \div 3$などの計算の仕方を、図や式を用いて、被除数の数の構成に着目して考え、説明している。</p> <p>＜観察・ノート（思①）〔記〕＞</p>
	4	<p>■分数で表された数を除法の計算を用いて求めることができる。</p> <p>□問題を把握する。</p> <p>□テープ図を基に80 cmの$\frac{1}{4}$の長さの求め方を考える。</p> <p>□80 cmの$\frac{1}{4}$の長さの求め方を説明し合う。〔◇〕</p>		●		

		<input type="checkbox"/> 分数で表された数を除法の計算を用いて求められることをまとめる。 <input type="checkbox"/> 分数と倍の関係を考える。 <input type="checkbox"/> 適用問題に取り組み、本時を振り返る。			<p>◆ 等分することや分数の意味に着目して、分数で表されている場面に ついて除法を用いて計算することを 考え、説明している。 <観察・ノート（思②）[記]></p>
つかう	5 本時	<p>■ 分数で表された数を除法の計算を用いて求め、もとの大きさが異なるものの等分した数について理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[本時のめあて]</p> <p>もとの長さの$\frac{1}{4}$の長さの違いを考えよう。</p> </div> <p>□ 問題を把握する。 □ テープ図や実際のテープを4等分になるように折ったものを基にしながら、84 cmの$\frac{1}{4}$の長さや88 cmの$\frac{1}{4}$の長さの求め方を考え、答えを求める。 □ もとの長さの$\frac{1}{4}$の長さが異なる理由を考え、説明し合う。[◇] □ もとの大きさと分数の関係についてまとめる。 □ 適用問題に取り組み、本時を振り返る。 □ 単元の課題を振り返る。</p>		●	<p>◆ もとの大きさに着目して、$\frac{1}{4}$の長さが異なる理由を考え、説明している。 <観察・ノート（思②）[記]></p>

注：[◇]では、SSTの流れ【①インストラクション】【②モデリング】【③リハーサル】【④フィードバック】を取り入れる。

II 本時の学習

- ねらい 分数で表された数を除法の計算を用いて求めることを通して、もとの大きさが異なるものの等分した数の大きさについて考えることができる。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応[S] ★ICT活用に関する事項 ◇SSTを活用する事項 【 】SSTの流れ</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)</p>
<p>1 学習を把握し、めあてを設定する。(★) (5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><問題></p> <p>もとの長さの$\frac{1}{4}$の長さをそれぞれ求めましょう。</p> <p>①青色のテープは84 cmです。84 cmの$\frac{1}{4}$の長さは何cmですか。</p> <p>②黄色のテープは88 cmです。88 cmの$\frac{1}{4}$の長さは何cmですか。</p> </div>	<p>◎SSTで身に付けた「話の聴き方」のスキルを活用できるように、録画してあるSSTの場面を大型モニタで視聴することで話の聴き方を想起させる。</p> <p>◎上手な話の聴き方のポイントを確認することで、授業の中での話の聴き方を意識できるようにする。 (「体を向ける」「話す人を見る」「あいづちを打つ」)</p>

<p>○①、②の問題を個別で追究する。 S : ① 式 $84 \div 4 = 21$ 答え 21 cm ② 式 $88 \div 4 = 22$ 答え 22 cm</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><めあて> もとの長さの $\frac{1}{4}$ の長さが違う理由を考えよう。</p> </div>	<p>○前時までの学習を想起し、もとの長さの $\frac{1}{4}$ の長さを求める問題場面を把握できるようにする。</p> <p>○悩んでいる児童に対して、前時で 80 cm の $\frac{1}{4}$ の長さは、$80 \div 4$ の除法の式で求めたことを想起させる。</p> <p>○問題①と問題②のどちらも $\frac{1}{4}$ の長さであるが答えが違うことを確認し、疑問を基に問い掛ける。</p>
<p>2 めあてを追及する。(27分) (1) 個別で追究する。</p> <p>○もとの長さの $\frac{1}{4}$ の長さが違う理由を考える。 S : どちらももとの長さの $\frac{1}{4}$ の長さだけ… S : もともとの長さが違うから 4 つに分けた 1 つ分だから違う。</p> <p>(2) 考えを深める。(◇)</p> <p>○もとの長さの $\frac{1}{4}$ の長さが違う理由をグループで説明し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇【①インストラクション】 T : これから話合い活動を行います。どんな話の聴き方をしたらいいですか。この間、学習したことを思い出しましょう。 S : 「体を向ける」「話す人を見る」「あいづちを打つ」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇【②モデリング】 T : 先生が話の聴き方のお手本を見せますよ。 T : 今の算数の学習について説明してくれる人? S : 今の算数の学習は・・・ T : 話を聴いてもらえるとどんな気持ちができる? S : 嬉しい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇【③リハーサル】 T : では、学習した「上手な話の聴き方のルール」を使って、グループに自分の意見を伝えてみましょう。 S : どちらも $\frac{1}{4}$ だけど、もともとの長さが違うから 4 つに分けた 1 つ分も違うよね。 S : (「体を向ける」「話す人を見る」「あいづちを打つ」)</p> </div>	<p>○もとの大きさが異なるものの等分した数について理解できるように、どうして $\frac{1}{4}$ の長さが違うのか考えさせるようにする。</p> <p>○説明をしやすくするために、ノートに図を示したり、文章で説明したりしてもよいことを助言する。</p> <p>【①インストラクション】 ◎「話の聴き方」のスキルを想起できるように、どのような聴き方をしたらよいか教師が問い掛け、確認をする。</p> <p>【②モデリング】 ◎児童の話を聴きながら、教師がよい聴き方のポイントを意識した見本を見せる。</p> <p>○話を聴いてもらえるとどんな気持ちができるか発表者にたずね、気持ちがよくなることを再確認する。</p> <p>【③リハーサル】 ◎「上手な話の聴き方のルール」を意識させて話合い活動を行うように助言する。 ○グループ活動のルール「全員発表」「質問」「答える」を取り入れ、自分にはない考えを知り、理解を深める。 ○答えに困っている児童に対して、友達の発表を参考にしてよいことを伝える。</p>

<p>◇【④フィードバック】</p> <p>T：しっかりと話す人を見ていましたね。聞いてもらえた人も嬉しかったですね。とてもすばらしいです。</p> <p>(3) もとの長さの$\frac{1}{4}$の長さが違う理由を学級全体で共有する。</p> <p>T：グループ内で自分と同じ考え方の人がいた人？</p> <p>T：クラスに向けて発表してくれる人？</p> <p>S：もとの長さが違うから違う。</p>	<p>◆評価項目</p> <p>もとの大きさに着目して、$\frac{1}{4}$の長さが異なる理由を考え、説明している。 <観察・ノート(思②)></p> <p>【④フィードバック】</p> <p>◎「上手な話の聴き方の3つのルール」を意識して、話合い活動ができている児童を称賛する。</p> <p>○グループの中で、同じ考え方の人がいたかどうか問い掛ける。</p> <p>○自信をもって発表できるようにするために、グループ内で同じ考えがいた人に発表するように促す。</p> <p>○身に付けたスキルの定着を図るために、「上手な話の聴き方の3つのルール」を意識しながら発表を聴くことができている児童を称賛する。</p>
<p>3 学習をまとめる。(3分)</p> <p><まとめ></p> <p>もとの長さが違うから、その$\frac{1}{4}$の長さも違う。</p>	<p>○学習をまとめるために、本時のめあてに振り返り、学習内容をまとめる。</p> <p>○理解を深めるために、グループでの話合いで意欲的に活動していた児童を意図的に指名する。</p>
<p>4 学習を振り返る。(10分)</p> <p>例</p> <p>大きな数のわり算の仕方では、10を基にして考えると十の位は計算できて、一の位は今までと同じわり算でできる。</p> <p>分数で表されたわり算では、$\frac{1}{4}$は4等分したうちの1つ分。もとの大きさが違うと等分した大きさも違う。</p>	<p>○単元の振り返りができるように、既習事項を基に、学習した内容や計算の仕方等、思考の過程を整理しながら、ノートに振り返りを書けるようにする。</p> <p>○学習した内容の視点を明確にするために「大きな数のわり算の仕方では、」「分数で表されたわり算では、」という書き出しで、振り返れるようにする。</p>

3 板書計画

問題

もとの長さの $\frac{1}{4}$ の長さをそれぞれ求めましょう。

①青色のテープは84 cmです。84 cmの $\frac{1}{4}$ の長さは何cmですか。

--	--	--	--

式

答え

②黄色のテープは88 cmです。88 cmの $\frac{1}{4}$ の長さは何cmですか。

--	--	--	--

式

答え

まとめ

もとの長さが違うから、その $\frac{1}{4}$ の長さもちがう。

【単元のふり返し】

めあて もとの長さの $\frac{1}{4}$ の長さの違いを考えよう。